

# 「いのちをつなぐ」 みやぎ防災教育推進協力校の実践から

発行：宮城県東部教育事務所

平成28年3月8日

東部管内石巻地区の各園・小・中学校においては、震災の教訓を踏まえ、「みやぎ学校安全基本指針」及び「学校防災マニュアル作成ガイド」を基盤とし、幼児・児童生徒や地域の実態に応じた防災教育指導計画や学校防災マニュアルの作成・改善に取り組み、実践に生かしています。

各園・小・中学校の取組の成果として、①災害に対する備えや避難経路・避難場所等の見直しを図るとともに、地域や関係機関との連携を強化した合同避難訓練の計画を策定し、実施していること、②幼児・児童生徒の発達段階に応じて、防災教育副読本等の活用が増えていること、③隣接する幼稚園等や小・中学校、高校との異校種連携により、自助・共助の力や心が育まれた児童生徒の主体的な姿が見られることなどが挙げられます。

一方、震災後の地域の実情から地域と連携した組織づくりに苦慮していたり、防災教育指導計画の改善や防災教育副読本を活用した系統的な指導の一層の充実等の課題も見られたりもします。

そのような中、みやぎ防災教育推進協力校である石巻市立広淵小学校と石巻市立鮎川小学校では、みやぎ防災教育推進協力校事業の趣旨に基づき、①地域と連携した組織づくり、②防災教育副読本を活用した授業実践の2つを大きな柱として、実践に取り組んでいます。

本リーフレットでは、広淵小学校と鮎川小学校の主な実践を紹介しますので、防災教育の一層の充実に向けて、御活用願います。

## みやぎ防災教育推進協力校事業とは

児童生徒等が主体的に行動できる態度を養うために、地域関係機関・団体等及びPTAとの連携のための実践研究を推進するとともに、「みやぎ防災教育副読本」を活用した防災教育の授業実践（カリキュラムの構築）を行い、県内各学校で活用できる防災教育のモデル（みやぎモデル）づくりを目指します。さらには、その成果を普及することにより、県内全体における防災教育の一層の推進を図るものです。



広淵小 学校・地域合同避難訓練 H27. 6. 14



鮎川小 公開研究会提供授業 H27. 10. 29

### 1 「広瀨地区学校地域防災連絡会」の立ち上げまで

- (1) 平成15年の宮城県北部連続地震の後、学区内各行政区において自主防災会が順次組織される。
- (2) 東日本大震災の教訓から、平成24年度に「広瀨地区学校地域防災連絡会」が発足する。
- (3) 定例会議は7月と12月に開催、必要に応じて臨時の会議を開く。

#### <目的>

- 広瀨小学校の災害対策について、保護者及び地域住民等と連携して推進するとともに、地域ぐるみの防災の充実を図る。
- 広瀨小学校の防災教育目標の具現を図る。
  - ① 防災の基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。
  - ② 防災・減災のために、自ら判断し行動する力を培う。
  - ③ 自他の生命を尊重するとともに、社会の一員として主体的に行動し協力しようとする態度を養う。

### 2 広瀨地区学校地域防災連絡会について

#### (1) 構成員

- 5地区行政委員      ○石巻市消防団第5分団長      ○担当地区防災会事務局
- 学校ボランティア代表      ○PTA会長・副会長・顧問
- 校長・教頭・教務主任・防災主任
- 会長…行政委員      ○副会長…行政委員・校長

<総務班>…運営本部の事務局，施設の安全点検，災害本部との連携（避難情報連絡，不足品の要請，急患搬送要請），運営記録作成，避難者への情報提供，ボランティア受付

<避難所管理班>…避難者誘導・避難者受付・区割り，避難者名簿管理，安否確認対応・避難情報集約

<食料・物資班>…備蓄品確認・不足品調達，食料，水確保・配給・炊き出し

<保健・衛生班>…応急手当・感染症患者の隔離・仮設トイレの設置，その他の衛生管理

#### (2) 話合いの内容

- 学校・地域合同避難訓練における運営や役割分担，避難所開設や関係機関への要請
- 各行政区における自主防災の取組や備蓄品，災害時の対応等の情報交換

### 3 広瀨小学校の学校防災推進の重点

- (1) 「防災管理」…災害時に安全に避難するための知識と危機意識を高める。
  - 各種災害に対する避難場所の設定と避難経路の確認
  - 学校防災マニュアル（避難所運営マニュアル）に準じた訓練と見直し
  - 災害に対する日常的な施設・設備の安全点検と危険箇所点検
- (2) 「組織活動」…教職員の防災・危機管理能力の向上を図る。
  - 災害時における教職員の役割の明確化
  - 家庭，地域，関係機関との連携（学校・地域合同防災訓練の実施）
  - 児童の心のケアに関する研修と対応能力の向上
  - 研修や訓練による教職員の防災対応能力や応急処理能力の向上

#### 4 平成27年度学校・地域合同防災訓練から

<日時> 平成27年6月14日(日) 8:10~13:30

<想定> 震度6強程度の地震発生

<内容>

① 公開授業(学級活動「防災教育」)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 合同防災訓練           | ⑥ 訓練・体験活動        |
| ② 地震発生           | ・応急手当訓練〔病院〕      |
| ③ 第1次避難(だんご虫ポーズ) | ・心肺蘇生法・AED訓練〔消防〕 |
| ④ 第2次避難(校庭集合)    | ・煙道体験〔消防〕        |
| ⑤ 避難所開設          | ・応急担架作り〔消防〕      |
|                  | ⑦ 炊き出し訓練(豚汁づくり)  |

<参加者>

|          |            |          |            |
|----------|------------|----------|------------|
| ・児童 158人 | ・保護者等 171人 | ・教職員 16人 | ・各行政区民 64人 |
| ・消防署員 4人 | ・消防団員 32人  | ・病院職員 4人 | ・警察職員 1人   |
| ・中学生 36人 | ・学校関係者 36人 |          |            |
|          |            |          | 合 計 522人   |

○実施後の保護者のアンケート結果から

・よかった(86%)      ・まあまあ(12%)      ・工夫が必要(2%)

○成果と課題(◎成果 △課題)

◎保護者や地域の自主防災組織、学校教職員の分担と役割が明確になり、避難所運営等のシステムの構築が図れた。

◎中学生の協力、役割等により、人と人のつながりを重視した連携ができた。

◎「防災だより」の発行等により、保護者と地域住民の防災意識の高揚が図れた。

△継続することのメリットとマンネリ化のデメリットを再考し、より実践的な訓練に近づけていくことが大切である。

### 石巻市立鮎川小学校の主な実践 ☆「防災教育副読本を活用した授業実践」から

#### 1 防災教育副読本の活用を中心とした防災教育の推進について

##### (1) 基本方針

様々な災害の特徴や災害時の状況について知る場面や、どのように判断し行動すべきかを考えさせるための資料として、副読本を活用することを中心として防災教育を進めていく。

##### (2) 副読本を活用した年間指導計画の作成と改善

○副読本を活用した指導の系統を明確にし、防災教育年間指導計画を作成する。

○毎月11日前後の日に防災の時間を設け、10分間で副読本を活用した指導を行い、災害全般と命を守るための知識を高める。

○防災教育の1単位時間の授業を各学年10時間行う。この授業においては、体験・実践を重視し、避難訓練や引渡し訓練、救命救急講習会等と関連させ、知識の実践化を意識する。

○防災の時間や1単位時間での指導の反省や活用した資料等を年間指導計画に朱書きし、改善を図るとともに、次年度の指導に生かす。

#### 2 鮎川小学校の防災教育で目指す子ども像

防災に関する知識をもち、自ら適切に判断して行動し、自分の命を守り抜くことができる子ども

|     | 【自助】<br>自分の命は自分で守る   | 【共助】<br>助け合い・共に生きる  | 【公助】<br>公の支援と備え  |
|-----|--|---|--|
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校、家庭を中心にした身近な場所における防災に関する知識をもっている【知識】</li> <li>身近な場所において、避難行動への判断ができる【判断】</li> <li>落ち着いて素早く行動する【行動】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>集団生活の中では、約束やきまりを守ることが大切であることを知っている【知識】</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校にある防災の設備について知っている【知識】</li> </ul>  |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における防災に関する知識をもっている【知識】</li> <li>その場の状況を理解し、避難行動への判断ができる【判断】</li> <li>落ち着いて素早く行動する【行動】</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが周りの人たちのために何ができるか知っている【知識】</li> <li>自分たちができることを考えることができる【判断】</li> <li>自分たちができることを率先して行う【行動】</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域にある防災の施設設備について知っている【知識】</li> </ul>  |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関するより多くの知識をもっている【知識】</li> <li>その場の状況を主体的に把握し、避難行動への判断ができる【判断】</li> <li>落ち着いて素早く行動する【行動】</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが周りの人たちのために何をすれば役立つのかを知っている【知識】</li> <li>状況に応じて、自分たちができることを考えることができる【判断】</li> <li>自分たちができることを率先して行う【行動】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の国や県、各機関からの様々な支援や、その働きについて知っている【知識】</li> <li>牡鹿銀鱗太鼓の演奏で地域へ活力を与えるとともに、各方面からの支援に感謝の気持ちを表す【行動】</li> </ul> |

### 3 鮎川小学校の年間指導計画の例（第5・6学年）

| 月 | 時間 | 取扱時数  | 副読本単元名・ねらい(○)   | 評価  |                               |                                  | 行事・略案No              | 備考<br>(○教科との関連・◎外部講師等) |
|---|----|---|---|---|-------------------------------|----------------------------------|----------------------|------------------------|
|   |    |   |   | 知識  | 判断                            | 行動                               |                      |                        |
| 4 | 1  | 1   | 【第1章】1. 東日本大震災をわすれない<br>○「命の大切さ」「絆」「避難行動の大切さ」等、鮎川の被災の状況を忘れず、後世に語り継ぐ大切さを理解する。  | 鮎川地区の東日本大震災の様子を知り、防災学習の必要性を理解できたか。          |                               |                                  | 略案 No. 1             |                        |
|   |    |   | 【第2章】2. 地震のしくみ<br>○断層型とプレート境界型の地震が起こること、地震が起こる仕組みと鮎川では三陸沖で起こる地震が多いことやその被害を理解する。<br>(市の防災副読本 P8-)                            | 地震の起こる仕組みについて理解できたか。                        |                               |                                  |                      | ○6年理科「変わり続ける大地」        |
|   | 2  | 【第3章】1. 地震の時の危険予測<br>○学校、外出中に地震が起こった場合の危険を日頃から確認し、対応できるようにしておくことを理解する。(児童用携帯マニュアルの確認) | 地震によって起こり得る危険について理解できたか。  | 地震によって起こり得る危険を把握し、どのように避難行動をとるか判断することができたか。 |                               |                                  |                      |                        |
| 3 | 3  | 3   | 【第3章】2. 緊急地震速報を知っておこう<br>○緊急地震速報がどのような時に流れるか理解する。また、震度の段階の違いを理解することで、緊急地震速報を見聞きした場合の「3つのない」場所を見つけ、「だんご虫ポーズ」を取るなどの安全行動を理解する。 | 緊急地震速報がどのような時に流れるのか理解できたか。                  | 地震速報の情報からどのような避難行動を取るか判断できたか。 | 地震速報を聞いて、落ち着いて素早く避難行動を取ることができたか。 | 避難訓練(地震・津波想定)・引き渡し訓練 |                        |

### 4 鮎川小学校の副読本を活用した授業実践の例（第5・6学年） 学級活動 10月実施

|   |
|---|
| <p>○題材名「私たちにできること」 みやぎ防災教育副読本「未来への絆」P38・39を活用</p> <p>○題材の目標<br/>         社会の一員として地域の活動やボランティア活動に取り組んだり、災害時には自分でできる役割を率先して行ったりすることの大切さを理解する。</p> <p>○副読本の活用<br/>         ・被災体験の差によることなく、災害や防災に関する正しい知識を身に付けさせる。<br/>         ・災害の様子や避難所で生活している人々の様子など、副読本の内容に関連する資料を教室に掲示することで、各災害の避難状況やその当時の人々の姿についてイメージをもたせやすくする。</p> <p>○主な学習活動<br/>         1 前時の防災の時間の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。<br/>         2 本時の学習課題を知る。<br/>         3 自分が支援する立場として、できることを考える。<br/>         (1) 避難所で起こり得る課題について、それぞれの解決方法を考えるゲームをする。<br/>         (2) 災害時に自分にできること、進んで実践するために普段からできることは何かについて考える。<br/>         4 本時の学習を振り返る。</p> |
|---|